

追悼のことば（要旨）

1965年4月30日の建立以降、永い歴史を積み重ねてきた「兵庫県解放運動無名戦士の碑・とこしえに平和の塔」には、その生涯を通じて労働運動・社会改革運動に尽くされてきた909柱の諸霊が祀られています。

本日、兵庫の戦前労働運動ゆかりの地、ここ大倉山公園において、「第43回合祀祭」が厳粛に執り行われるにあたり、労働団体を代表し、先達の御霊に深甚なる敬意と心からの感謝の意を表するとともに、新たに合祀されます7名、お一人お一人の偉大なるご功績を偲び称えつつ、謹んで追悼の誠を捧げます。

わが国において、労働者・生活者に密接に関わる課題は枚挙に暇がありません。

不安定な雇用形態が増大し、中間所得層減少・貧困の固定化・格差拡大などの分配のゆがみが顕在化するなかで、3年半にわたったコロナ禍が、より弱い立場にある労働者の雇用と生活に深刻な影響をもたらしました。

同時に、エネルギー・原材料価格上昇による物価高騰が追い打ちをかけ、生活困窮世帯が増加する一方で、セーフティネットの脆弱さを露呈しました。

その他にも、多発する自然災害、GX・DX 推進、ジェンダー平等・多様性推進、働き方改革、働き手不足などに起因する多岐にわたる課題を抱えています。

このような複雑な情勢だからこそ、労働組合として、「求める社会」を明確にし、その実現をめざすことが、社会的責任を果たすことであり、いまを生きる私たちに課せられた、次世代への果たすべき役割でもあります。

私たちは、「働くことを軸とする安心社会」の実現をめざします。

具体的には、「働くことに最も重要な価値を置き、誰もが公正な労働条件のもと、多様な働き方を通じて社会に参加でき、社会的・経済的に自立することを軸とし、それを相互に支え合い、自己実現に挑戦できるセーフティネットが組み込まれている活力ある参加型社会。加えて、持続可能性と包摂を基底に置き、年齢や性、国籍の違い、障害の有無などに関わらず多様性を受け入れ、互いに認め合い支え合う、誰一人取り残されることのない社会」の実現です。

ここに合祀されます諸先輩方の「高い志」と「不屈の闘志」、労働運動にかたむけられた「情熱」を受け継ぎ、次世代に責任を持って「より良き社会」を引き継げるよう、頑張り抜くことをお誓い申し上げます。

最後に、新たに合祀されます先達の御霊が、先に眠る御霊とともに、安らかならんことをご祈念申し上げ、労働団体を代表しての追悼のことばと致します。

2023年10月2日

労働団体代表 連合兵庫会長 福永 明